

# たわやがトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号  
TEL 099-227-9771

## 一隅を照らす十島の教育

### 11月…トカラ列島島めぐりマラソン大会

十島村教育長 有村 孝一

第8回「トカラ列島島めぐりマラソン大会」が2年ぶりに開催されました。新聞などの報道では知っていましたが、実際見てみるのは初めてでありましたので、大変興味がありました。夜11時、参加者の皆さんを乗せた船は出港しました。そして、すぐに就寝します。寝付いて6時間後には走り出すのですから。目を覚ますと夜明けの口之島です。時刻は朝5時半。村長の開会のあいさつがあり、いよいよスタートです。走り出す選手は、目は覚めているけど、身体は起きていないといった状態のようでした。その後、夜が明けきった中之島、参加者が最初の坂のきつさに苦戦した平島、最大の試練のアップダウン激しい諏訪之瀬島、そこでのダメージを引きずりながらの悪石島、大会で唯一フラットなコースを全力で走り、船のロープが切れるくらいのうねりのためゴールしたらすぐに乗船となった小宝島、車のライトが頼りのゴールとなった宝島。その誰もが、マイペースで完走し満足した顔でゴールしていました。



子どもたちも、それぞれの島で頑張ってくれました。中でも口之島の子どもたちは、助け合って全コースを見事に走り切りました。宝島の女性部の皆さん方の手作りによるトカラの料理に、舌鼓を打ちながら歓迎のスティールドラムに万雷の拍手が起こった交流会。表彰式や抽選会に大いに盛り上がり、宝島の夜は更けていきました。うねりのため会場ホテルの船は沖での停泊となりましたが、交歓会は遅くまで続きました。

翌日はそれぞれの島ごとに、子どもを中心に、港で特色あるセレモニーをしていただきました。子どもたちがとても凛々しく感じられました。そんな中、口之島女性部の皆さんのマ스ゲーム「としまの歌」には大きな拍手が湧いていました。

全走行距離29.4kmに及ぶ大会を終えて「こんなマラソン大会はちょっとないのじゃないの」と言われても不思議ではありません。ずっと走っておれば疲れも少しずつですが、走っては休みということで、後半にポディーブローのように効いてくるのではと、見ていて思いました。天候急変のため、急きょ閉会式を中之島で行いましたが、これも自然環境の厳しい十島村ならではの事だと思います。このマラソン大会の厳し

さは、定員130人程度と人数が限られていること、仮に選考をクリアしても、天候によっては実施できないということです。来年この大会は、国民文化祭の一環として実施されます。是非、天候に恵まれて実施できるといいなあと今から願っています。

### ★かがやけ！！としまっ子★

- 県児童生徒作文コンクール
  - 特選…永吉美悠(口小6) 山元悠希(口中2)
  - 入選…中島礼人(中小2)
- かわなべ青の俳句大会
  - 県教育委員会賞…上 修平(宝小1)
- 県国画作品展
  - 特選…福島嘉津穂(宝小3) 平田一華(宝小4)
  - 入選…平泉翔大(中小5)
- 県理科研究記録展
  - 入選…大迫 聡(口小3) 永吉美怜(口小2)
  - 大迫 恵(中中1) 菅野美沙希(諏小4)
  - 山中雪嘉(諏小6) 菅野悠里(諏中2)
- 県ロボットコンテスト中学生大会
  - 第3位…西いつき(悪中2) <九州大会へ>
- 学校新聞コンクール
  - 第一席…口之島中学校「タモトユリ」
  - 佳作…宝島中学校「メイメイ」
- 南日本硬筆コンクール
  - 優秀賞…宮村怜志(中小5)
  - 推薦…永吉美遥(口小4) 永吉美悠(口小6)
  - 小林優衣(中小2) 中島礼人(中小2)
  - 平泉翔大(中小5) 大迫 恵(中中1)
  - 小林良介(中中3) 森 文音(小中1)
  - 今村賢人(宝小2) 寺田碧海(宝小3)
  - 平田舞佳(宝小3) 今村律佳(宝小4)
  - 平田一華(宝小4)
  - 金賞…松井風葉(口小5) 平泉公大(中小2)
  - 大迫 聡(中小3) 羽生伊織(中小6)
  - 中村亮輔(平小3) 菅野美沙希(諏小4)
  - 菅野悠里(諏中2) 久永ひかり(悪小3)
  - 上三垣理恵(小中1) 森 裕太(小中2)
  - 中村久光(宝小6) 飯田陽菜(宝中2)
  - 伊地知麻鈴(宝中3)
- 全日本少年少女武道(剣道)錬成大会
  - 優秀賞…岸 泰生(悪小5)

シリーズ——十島の学校にやってきました  
口之島小学校5年 中村 拓海

ぼくは、昨年9月に口之島小学校へ転入しました。運動会の前日にフェリーで着き、必死で運動会の練習をしたのが口之島初日の思い出です。口之島の全校生徒の少



なさも印象に残っています。それまで、全校生徒519人いる学校にいたからです。運動会の日も友達といえる友達はいませんでした。とても心細かったです。



けれども、一年後の今年の運動会、たくさんの友達ができ、うれしさと楽しさでわくわくしました。男子全員、サッカーが好きです。ぼくもいっしょにサッカーの練習をしています。最初の頃よりうんと上手になりました。

口之島に来てよかったと感じることはもっとあります。まず勉強が得意になりました。釣りに行くと、大きな魚が釣れます。お気に入りの釣竿とも出会いました。魚にも詳しくなりました。最後に、先輩方が優しいのは真似したいところです。来年は、ぼくの弟が新一年生になります。弟のためにも、高学年らしい行動やサポートができるように頑張りたいと思います。

### 【子どもたちの作品】 ①

#### 平和への第一歩

平島小諏訪之瀬島分校6年 山中 雪嘉

(平成26年10月20日南日本新聞ひろば欄掲載)

「平和」は、ちょっとしたことでの言い合いをなくすことから始まるのではないか。「平和」と聞くと、私は反対の「戦争」という言葉を思い浮かべてしまう。私は、戦争の本当の恐ろしさを分らない。でも世界では、私と同じくらいの子やそれより小さい子が戦争を体験している。その子たちの生活は、私が思う以上につらく過酷だと思う。でも、これはあくまでも想像だから、自分と戦争を結びつけるのはむずかしい。

先日、「マザー・テレサ」の本を読んだ。マザーは子どもころ、宣教師が貧しい人々を救っているということを知り、修道女になりたいという夢をもった。修道女になってノーベル平和賞をもらったとき、「あなたがほほえむだけでいいのです。小さいことでいいのです。そこから愛が始まるのです。」と言った。この言葉を、私は「どんなに言い合ってもお互いが笑えば、なぜ争っていたかを考えられる。そして、いい愛が始まる。」ととらえた。今回の「平和について考える」という学習をとおして、自分にとっての「平和」とはどのようなことを考えることができた。ちょっとしたことで言い合いをしないこと。また、言い合いになったら笑うこと。本当にちょっとしたことだが、むきになりがちな私にとっては、このことが「平和」への第一歩だと思う。



### 【子どもたちの作品】 ②

#### 来年の誓い

口之島小学校6年永吉 美悠

(平成26年10月31日南日本新聞ひろば欄掲載)

私の住んでいる十島村では、毎年、「トカラ列島島めぐりマラソン」が開催されます。これは、十島村の有人島7島を定期船「フェリーとしま」で移動し、各島々を走るという大きなイベントである。私は両親と妹2人と「チームM」として参加しました。今年が初めてなので不安でしたが、参加したことのある友達や先生か

らアドバイスをもらいながら、練習をしました。マラソン当日、私は諏訪之瀬島と小宝島を走りました。諏訪之瀬島はずっと坂が続き、とてもきつかったです。足が痛み、息も苦しくて、おなかも痛くなりました。よいタイムを出すために速い人についていくつもりだったのに、おいていかれてしまいました。

私は、島に来た2年前から、毎日走る練習をしてきました。でも、だらだらと走ることが増え、父から「もっと速く走ることが出来るはずだ。」と、よく注意されていました。ようやく走りきった私を待っていたのも、「もっと練習しないとイケない。」という言葉でした。あまりにも当然のことすぎて、何も言えませんでした。



しかし、チームとしての成績は3位入賞で、とてもうれしかったです。来年は全島を一人で走ろうと決めています。今年の悔しさを来年晴らすためにも、練習で手を抜かず、もっと強い心とからだを作っていきます。

### 十島村の小・中学校からのメッセージ ③

平島小・中学校諏訪之瀬島分校 教頭 菅野公平  
諏訪之瀬島はトカラ列島のほぼ中央に位置し、島の北部には活火山御岳(799m)があり、現在も活動を続けています。4月中旬からは、溶岩の原野にマルバサツキが紫色の絨毯を敷き詰めたように咲き、青く透き通った海や満天に輝く星など、どれをとっても素晴らしい自然環境を誇る島です。

諏訪之瀬島分校は児童生徒数15名(児童9名、生徒6名、山海留学生3名を含む)、職員数9名で、この数年間で最も児童生徒数が多く活気溢れる学校になっています。1年半前、諏訪之瀬島分校に赴任した日は生憎の雨。それにもかかわらず、児童生徒・保護者、多くの島民の方々に出迎えていただいたことを今でも覚えています。

保護者や地域の方々とはとても協力的で、体育大会や文化祭などの行事は勿論、入学式・卒業式へもほとんどの島民の方が出席し、児童生徒の成長を温かく見守り、祝福してください。

また「魚いるね」「バナナ持ってきたよ」「野菜持っていく。」など、日頃より分校職員やその家族にも声をかけていただき、とてもありがたく思うことです。私自身も、イルカウォッチング、タケノコ採りや魚(鳥賊)釣り、刈払機のメンテナンス方法、通船作業など、諏訪之瀬島で体験することができてとても新鮮で、島民の方々に教えてもらうことばかりです。

諏訪之瀬島分校に赴任して1年半、諏訪之瀬島の人々に学び生かされて、私たちの教育活動は行われていることをしみじみと感じています。これからも、初心を忘れることなく、諏訪之瀬島での学びを大切にしたいと思います。

教職員仲間である「あなた」への  
私からのメッセージ

「飲水思源」・・・中国の故事成句の一つで、諏訪之瀬島分校に来て学んだ言葉です。